
空色日和

蓮花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空色日和

【Nコード】

N8934C

【作者名】

蓮花

【あらすじ】

空をもとに書いた詩の集まりです。

空色日和

見上げた空は、いつも綺麗で

《雨空》

空は、泣いていた

どうしてそんなに泣いているの？

何がそんなに悲しいの？

赤い傘越しに見える灰色の空は

ただ静かに泣いていた

あたしだって、泣きたいよ

《夜空》

深い深い濃紺の中に

たくさんの光がありました

遠い遠い宇宙のどこから、届いている光です

小さな小さな光です

だからお願い、消さないで

《雨空 一二》

震えているあたしの手を握って、あなたは言いました

「おいで」

着いたのは、土砂降りの空の下でした

あなたは、あたしに言いました

「ここなら、泣けるんじゃない？」

あたしは、空と一緒に泣きました

《冬空》

白くて冷たいもの

次々と降っては、消える

その繰り返し

これは、何？

それすらも忘れてしまったの

冷たい空の下

もう涙を流すこともできなくて

《夏空》

見上げた木の上に、あの子はいた

「そんなところにいたら、危ないよ」

私は言った

「何が、危ないの？」

少女は、太陽の眩しい空を見上げながら尋ねた

「落ちたら、死んじゃうよ」

私は答えた

すると少女は、その純粋な瞳に私を写した

「死ぬのは、いけないことなの？」

私は、答えられなかった

私が黙っていると、少女はまた空を見上げた

少女の瞳には、雲一つない夏空が広がっていた

《夕空》

赤く染まった空の下

あなたは背を向け、歩き始めた

「また、会えるよね」

あたしが言つと、あなたは立ち止まった

「きつと、会えるよ」

振り向いたあなたの顔は、悲しみに満ちていた

何度このやり取りをしたのだろうか？

あなたはまた、歩き始める

《朝空》

どんなに辛くても

どんなに苦しくても

朝は必ず来る

日は昇る

結局この世界は

繰り返してしかない

再生しては、巻き戻し

だから私達は

毎日をやり直す

（後書き）

空を見ていると、色んな気持ちになります。切なくなったり、元氣が出たり。本当に不思議です。

何かが嫌になったり、元氣が出ない時にはぜひ空を眺めて見てください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8934c/>

空色日和

2010年10月11日02時44分発行